



①雪害に遭ったぶどう園
②満開時のシャインマスカット
③摘粒後のシャインマスカット
④収穫直前のシャインマスカット
⑤鈴木さんのぶどう(シャインマスカット)

日本で生まれた品種、世界で大人気

種なしで皮ごと食べられる魅力

シャインマスカットの栽培
(有)山形南陽のんのん倶楽部

「当園では、雪解け後(4月)に雨よけテントのビニール張りから作業開始。5月10月と長期間被覆するので丁寧に行います。4月下旬には発芽、5月の気温上昇に

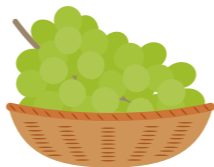
大きさがつかがわれます。

2006年にはシャインマスカットと命名され、日本の品種として品種登録されました。種がなく、皮ごと食べられる食べやすさが消費者のニーズとも合っており、全国的に広がっています。しかし、残念なことに海外での品種登録をしていなかったため、今や中国・韓国の方が日本より生産量が多いとのこと。この品種の魅力の大きさがつかがわれます。

シャインマスカットは
日本で生まれた品種

シャインマスカットは、1988年、広島県の農林水産省果樹試験場安芸津支場において、安芸津21号(スチューベン×マスカット・オブ・ブアレキサンドリア)と白南甲斐路×カクタクルガンを交配して生まれました。欧州種の高い糖度と、米国種の育てやすさを兼ね備えた大粒の品種。深みのある甘さはもちろん、爽やかなマスカットの香りとしっかりしたかみ応えが魅力です。

微生物活性の高い土で育つおいしいぶどう



伴い猛スピードで生育が進むので、摘芽、防除、誘引、花穂成形(房作り)と目の回る忙しさとなります。

6月上旬の開花前に果実の着粒と果実肥大のために芽の先端を摘み取る摘心、満開時に1回目のジベレリン※の浸漬処理をし、房作り(形と長さを調整する)と摘粒(間引き)作業が続きます。

7月下旬の梅雨明けと同時に果実が軟化期に入ったら、袋掛け作業(8月のお盆あたりまで)。9月25日ごろから10月が収穫です。11月、初雪前に急いで雨よけテントのビニールを撤去。雪害に遭わないよう、十分に葉が紅葉していなくても急ピッチで剪定し、元肥・肥料散布をして年間作業を終えます(鈴木秀男さん)

※ジベレリン:ジベレリンは植物の成長を助ける植物ホルモン。一種の花房をジベレリン液に浸すことで、種を作らずに実を付けることができます。



「のんのん」のシャインマスカット 努力惜しまぬ土づくりのたまもの



鈴木 秀男さん(左)と伊藤 武右衛門さん(右)

今月の
産地・
メーカー

(有)山形南陽
のんのん倶楽部

厳しくも豊かな自然が、おいしい果物を育みます

(有)山形南陽のんのん倶楽部は、山形県南部、置賜盆地の北側にあります。夏は高温で猛暑となりますが、11月には早くも初雪が降り、寒い冬が来る内陸盆地型気候です。湿った重い初雪が、収穫前のりんごや剪定前のぶどう棚に雪害をもたらすこともあります。しかし、1シーズンで1.5~2mにもなる積雪も春は田植えの水源になり、4.5カ月間農地を覆い尽くす雪は地際を凍らせないので微生物の活性が高くなって地力を豊かにする…。厳しくも豊かな自然の力が農業を支えています。黄色重粘土地帯のため、耕作しづらく苦勞する面もありますが、手をかければとてもおいしい果物が育つ土地。「粘土質を使いこなすことが重要!」と、生産者は土づくりにたゆまぬ努力を続けています。



「のんのん倶楽部」ネーミング秘話

厳しい冬を家族や集落で助け合って生きるくらしや、春を待つ楽しい子どもの生活を描いた、山形県童話の会・編『雪のんのんのん』。同書には、1873~1880年、のんのんと雪降る夜に庄内の農民が決起した「ワッパ一揆」についても書かれています。「雪がのんのんと降る」という方言には、自然と闘う力が秘められている…。そのたくましさを受け継ぎながら、畑で仲間と楽しくのんびりと働くイメージも重ね合わせ、厳しい中でものんきに楽天的に生きたいという願いを込め、この名前が付けられました。

チャレンジし続ける生産者から

「土地の自然条件(環境)を生かした、おいしいモノづくりを心掛けています。水はけの悪い粘土にライ麦を植え、ぬか堆肥を入れて水はけを改善し、根の活性を高めるよう苦慮しています。有機質の肥料「米の精」のほか、ほたて貝殻や卵殻も加えて、微生物活性の高い粘土を目指しています。

ネオニコチノイド系農薬の排除にも取り組んで4年目、何とか大丈夫なところまで来ました。労力不足も補うことができ、購入しやすさにもつながるよう、今年はシャインマスカットの小房栽培に挑戦しています(鈴木 秀男さん)

ほうじゅん
甘く芳醇、
ジューシーなぶどう

鈴木さんのシャインマスカット
10月1・2回 本体価格
(特)999円(1,078円)